

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 5月16日

【評価実施概要】

事業所番号	1092600020
法人名	医療法人 社団 高仁会
事業所名	みんなの家 なかんじょ
所在地	中之条町大字中之条町967 (電話) 0279-75-4165

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年4月25日

【情報提供票より】(20年4月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	12人, 非常勤 1人, 常勤換算 12.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	
敷 金	100,000		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吾妻脳神経外科循環器科・原町赤十字病院・川越歯科クリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、駐車場を挟み商店街に面している。その立地条件を生かし、入居者と共に日常的に食材や日用品の買い物を行ったり、歩行者天国や地域の祭りに参加している。設置主体である医療法人と、研修や入居者の健康管理や職員研修などで連携を図り、入居者が、その人らしく生き生き、穏やかに、かつ、ゆったりと地域の中で、安心して利用できるよう常に前向きにチャレンジしている。また、管理者は、職員の悩みを真摯に受け止め、日常業務はもとより年2回行われる人事考課や懇親会等の機会を捉え、職員一人一人と話し合い、ストレス解消に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員会議で説明し、職員全員で記入している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、入居者の年間推移や行事、職員研修状況、便りの発行などについて話し合われている。会議での意見を基に、建物に隣接して家庭菜園を設置したり、商店街での食材の買い物等日常的な外出を行ったり、サービスの向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には、日常生活の状況や行事の様子を「みんなの家なかんじょ便り」で報告しているほか、受診の結果や近況を、面会時や電話で適宜報告している。また、運営に関する家族の意見等については、面会や電話連絡時に何でも言えるような雰囲気作りにつとめている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は、駐車場を挟み商店街に面し、入居者は職員と一緒に食材や日用品の買い物に行ったり、歩行者天国等地域で開催される祭りにはできるだけ参加しており、山車が玄関先まで来てくれている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、その人の思いを大切にし、その人らしく生きる姿を支え、その人ができることに着目し、医療との連携を図り、地域社会の中で交流を大切にした支援を、職員会議で検討し、事業所の理念に掲げている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を名刺大に印刷したものを全職員が携帯し、共有している。また、月1回開催されるケアカンファレンスや申し送り時に、理念に沿ったケアについて話し合い、具体的なケアの実践に向け取り組んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議には、老人会の代表者に参加してもらっているが、地域の自治会・老人会に参加していない。入居者と職員は、近くの商店街に食材や日用品の買い物に出かけたり、地域で開催される祭りにはできるだけ参加している。	<input type="checkbox"/>	自治会や老人会への加入など地域の社会資源を活用し、入居者が地域の一員として日々の生活が送れるよう、なお一層地域社会との交流をされるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は、今回が初めてである。自己評価を職員会議で説明し、各項目の内容を振り返りながら、職員全員に記入できる所は記入している。管理者・職員は、評価の意義を理解し次の改善に繋げていきたいとしている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の年間推移や行事、職員研修状況、便りの発行などについて話し合われている。会議での意見を基に、建物に隣接して家庭菜園を設置したり、商店街での食材の買い物等日常的な外出を行ったり、サービスの向上に活かしている。	<input checked="" type="checkbox"/>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町職員やケアマネージャー等が出席する包括支援センター主催の情報交換会に月1回出席したり、認知症家族の会に参加して、情報交換等を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	近況や受診結果は、面会時や電話で適宜家族に報告している。また、日常生活や行事の様子は、写真なども添え月に一度「便り」で報告している。預かり金は、出納帳の写しとレシートを添付し、年度末に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会や電話連絡時に家族等から意見や要望等を聞くようにしている。何でも言えるような雰囲気作りにつとめている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者との馴染みの関係が大切と考え、法人内やユニット間の異動は行っていない。新規採用職員に対しては、新人研修やユニットリーダーが指導し、入居者へのダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、職員の希望を取り入れ積極的に参加している。受講後は報告書を作成し供覧し、伝達講習会も開催している。また、法人の内部研修として、全職員を対象に口腔ケアや感染などの研修や専門研修が行われ、職員の育成に力が入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町職員やケアマネージャー、外部の講師等が出席する包括支援センターの情報交換会に出席している。認知症等の講演会やグループホーム大会に出席し、情報の交換や収集を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に自宅を訪問し、本人の職歴や生活歴を調査しながら、心配事や要望をお聞きしている。また、事前に施設を見学してもらい、希望があれば体験宿泊もできる体制をとるなど不安の解消に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食材の買い物やおやつ作り、掃除等を一緒に行い、煮物の調理方法や餅つきなど昔行われた年中行事等を教えてもらいながら行っている。また、入居者の気分が落ち込んでいる時や不安の事柄を抱えている時は、じっくり話を聴いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好きなことややりたいことを支援する為に、ドライブや食事内容等一人ひとりの希望を聞き記録している。意思表示の困難なひとには、日常的な会話の中や関わりを通じて、顔の表情や様子から本人の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアスタッフ間で情報交換を行い、ケアマネージャーが計画の作成を行っている。面会時等に、日々のケアについての家族の要望を聞くように心がけているが、生活に関する相談や計画立案に向けての家族等の意向が、計画に反映されていない。	○	積極的に働きかけを行い、家族側からの意見や希望等を聞き、その人らしく生活できることを共に考えた介護計画を作成するよう期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを開催し、検討している。朝の申し送り後に気になる点や問題点を話し合い、ケアに活かしているが、介護計画の変更は行っていない。介護計画の変更は認定期間毎に行っている。	○	ケアカンファレンスや毎日の話し合い後のケアの変更を、現状に即した形に介護計画を修正するよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診・理美容院の送迎や入居者の自宅への送迎も職員が行っている。1階のデイサービスの岩風呂に入浴したり、デイサービスの利用者と一緒に餅つきに参加したり、大正琴の演奏を聞いたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を把握し、希望に基づき受診している。送迎は、情報を得ながら職員が行っているが、承諾書等状態により家族の付き添いをお願いしている。受診結果は適宜、家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の時、病状の急変や緊急事態等の万一の状況について、説明している。救命の医療をどこまで希望するのか等、終末期に向けた方針の原案を職員会議で説明し、意見を聞きながらマニュアルを作成中である。今後は、家族の意見を聞きながら、納得した最後を迎えられるよう支援をしていきたいとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新人研修で、プライバシーを損ねないような言葉かけの接遇研修を行っている。また介護記録等の個別記録は、鍵のかかる書庫に保管し、職員のメモ帳等は、帰宅時には事務所に置き持ち帰らないよう指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表は作成していない。その日の行事等は、天気や入居者の意向、体調面等を考慮して、入居者と相談し決定している。昼食のおかずとして好きなコロッケやおやつを買いに行く、喫煙所でタバコを吸う、毎夕食後居室で晩酌する等出来るだけ希望に添った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の行動や食事中に、「こういう物は好きじゃない」とか「美味しいね」といったことを、好き嫌い表にメモし献立に役立てている。食事の準備や配膳・下膳、おやつ作りや商店街での外食を、職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、曜日や時間・回数を決めずに、入りたい時に入れる支援を行っている。入浴嫌いの人には、入浴チェック表で3日目位には入浴するよう声をかけている。入浴の難しい人には、気分の良さそうな時のタイミングを見計らい入浴の声かけや、足湯を勧めるなど楽しく入浴できるよう支援している。また、1階デイサービスの岩風呂も利用できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、食事の準備や配膳・下膳、居室の掃除、家庭菜園での野菜や草花の栽培、食材の買い物、裁縫、元大工経験者の兎小屋作りなど生活歴を活かした役割や楽しみを行っている。また、歩行者天国の見学や外食・ドライブ等の支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩をかね商店街に2～3日毎に食材の買い物に行ったり、個人のジュースやおやつ等を買いに出かけたりしている。家庭菜園での作業や歩行者天国の見学、外食やドライブなど入居者の意向に添った外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の命と自由度を考え、職員が手薄の時は事故につながる危険が大きいため、1階に降りる階段ドアには鍵を頭上につけ、エレベーターは暗証番号が必要となっている。	○	入居者の安全を確保しながら、日中は鍵をかけない工夫に取り組むよう期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時対応マニュアルがあり、緊急連絡網が整備され一人ひとりに配布されている。消防計画書を作成し消防署の指導下で、年2回避難訓練を行っている。運営推進会議で、消防団との関わりについて意見があり、今後取り組む予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間表で水分摂取時間や食事摂取量を記録している。しかし、水分に関しては量的な記載や集計がない。献立は前日の食事と重複しないよう調理し、カロリーは法人の管理栄養士に見てもらっている。	○	特に留意する入居者に対して水分量の合計やカロリーを記録されるよう期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂には、テーブルの他にソファが配置されテレビを見ながらくつろげる環境である。観葉植物がおかれ、水仙や手洗いには草花が生けられ、季節感が感じられる。車いす入居者の訓練用に歩行器が用意され、廊下で歩行訓練をしている。調理室・浴室・トイレ等は清潔に保たれ、喫煙場所も確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、整理タンスや衣紋掛け、テーブルやいす等が持ち込まれ、家族の写真が飾られたり、花が活けられている。2間つづきの夫婦用の畳部屋には、コタツも持ち込まれている。また、乾燥期には事業所の加湿器が配置される等居心地良く過ごせるよう配慮されている。		